

介護の現場を
“楽しく”照らす
広報誌
2025 Spring

Delight

Vol. 2

医療法人 浩治会が運営する施設

当法人では、下記の介護施設、支援事業所などを運営しております。

ご質問・ご相談などは、各施設のQRコードよりHPにお入りいただきお問い合わせいただくか、記載されているお電話番号までご連絡いただきますようお願いいたします。



浩治会HP

- 介護老人保健施設「大今里ケアホーム」
- 居宅介護支援事業所「大今里ケアプランセンター」
- 介護職員初任者研修事業所「大阪城ケア学院（今里校）」

〒537-0014 大阪市東成区大今里西2-17-16 TEL: 06-6975-3090



大今里
ケアホームHP

- 認知症対応型共同生活介護「グループホームゆめの里」

〒537-0014 大阪市東成区大今里西2-17-16 TEL: 06-6975-3081



グループホーム
ゆめの里HP

- 介護老人保健施設「大阪城ケアホーム」
- 介護職員初任者研修事業所「大阪城ケア学院」
- 居宅介護支援事業所「大阪城ケアプランセンター」

〒536-0014 大阪市城東区鳴野西2-5-24 TEL: 06-6961-1151



大阪城
ケアホームHP

- 介護付有料老人ホーム「大宮ケアホーム光」

〒535-0002 大阪市旭区大宮4-2-27 TEL: 06-6953-0107



大宮ケア
ホーム光HP



特集 人とICTで
支える介護

介護現場のICT（情報通信技術）化が 「介護の質」を高める時代に入っています

今回の『Delight』のテーマは「人とICTで支える介護」。

ICTとは「Information and Communication Technology」の略で「情報通信技術」を意味します。さまざまな業界でICTの導入が進む今、介護業界でもICTを活用する動きが広がりつつあります。

介護現場のICT化は必須の対策

介護現場のICT化は、近年急速に進んでいる印象があります。センサーやカメラで睡眠や動きなどを感知する機器、オムツ交換のタイミングを検知するシステム、また、機械化という意味では「パワーアシストスーツ」も導入が進んでいます。

背景には介護業界の慢性的な人手不足と後期高齢者の増加（2025年問題）などが挙げられます。厚労省も「介護現場における生産性の向上」を推進している今、介護現場のICT化はもはや必須の対策といえるでしょう。

「人にしかできない介護」が重要に

介護現場における「生産性」とは、業務の効率化によって「時間」と「気持ちの余裕」を生み出すことだと考えています。そうして生み出したリソースを「人にしかできない介護」に充てることで、介護の質はもっと高められるはずだと考えています。

今後いかにICT化が進んでも、「すべては利用者様のために」という意識や、介護中の人と人とのコミュニケーションの重要性は不変です。その上で、ICT化による新しい介護の形に対応していく必要があると考えています。



大宮ケアホーム光・介護長
小西 智

「普段利用者様がどのように考え、どのように過ごされているのか、じっくり見えています」という小西さん。ICT化によって、多忙な時は難しかった「じっくり見る」ことが可能になり、介護の質の向上につながっていると語る。

特集 人とICTで支える介護



センサーで睡眠状態を把握し
日々の安眠と健康的な生活を守る



大宮ケアホーム光では、マットレスの下に敷くだけで眠りの深さや離着床、心拍数などを確認できる「見守りセンサー」(写真真中)を、約2年前から全150床に導入しています。

これまでは、夜1時間おきの訪室で睡眠状態を確認していましたが、その際の物音で起こしてしまうこともありました。今はモニター画面(写真右下)で「深い眠り」と分かれば訪室を避け、利用者様の安眠を守っています。



見守りセンサーで「浅い眠り」だったことが確認できた利用者様には、夜よく眠れるように、日中できるだけ会話をしたり体を動かしてもらうよう対応しています。

実際、センサーの導入以降、昼夜逆転生活されている方や、日中の家族様との面会時に熟睡してしまうケースが減っています。

Voice

今まで以上に寄り添った 介護ができるようになりました

見守りセンサーによって夜間訪室の回数が減った結果、眠れない方への声かけに時間を割けるようになるなど、効率化だけでなく、今まで以上に親身な介護ができるようになりました。

私にとって利用者様はお客様という以上に「ファミリー」です。ICT機器を活用しながら、さらに寄り添った介護を心がけていきます。



小西 智
大宮ケアホーム光・
介護長

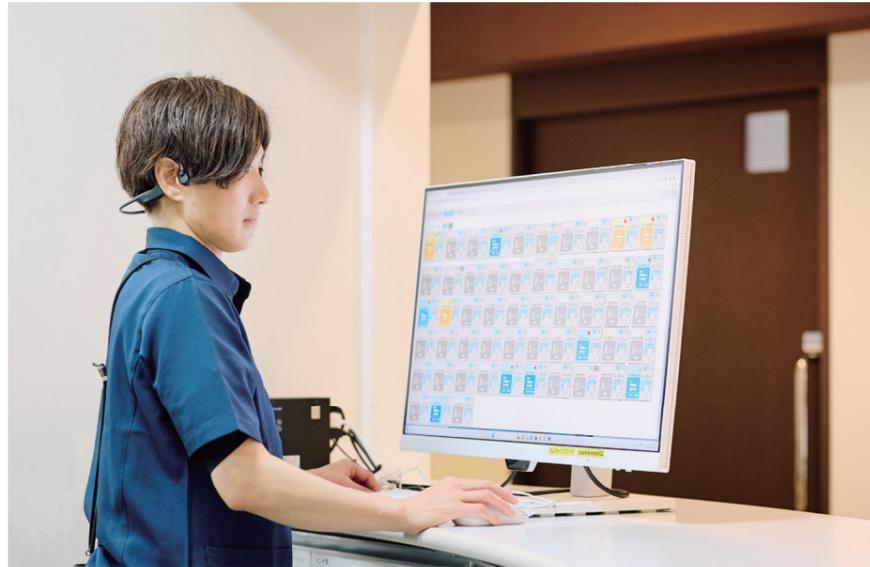


見守りセンサー

利用者様に最適な対応を判断
センサーの客観的なデータをもとに

見守りセンサーの画面はスマホでも見られるため、パソコンモニターを確認しに戻る必要がなく、介護職員の移動時間・距離が減り作業効率がアップしました。

さらに、覚醒・離床された方のアラートも届くため、利用者様の睡眠状態の変化に合わせた素早い対応が可能となりました。



これまで利用者様への対応を決める際には、介護職員の経験や勘、または、その利用者様との関係性などを参考に話し合っていました。

しかし、センサーの導入後は、利用者様のデータを共有できるようになったため、客観的な根拠をもとに、その方に適した対応を判断しています。

\Topics/

■ 大阪城ケアホームでも見守りセンサーを導入



大宮ケアホーム光と同じ「見守りセンサー」を導入し、3月から運用しています。今回の導入にあたっては、全職員と面談し「自分が楽になるためではなくご利用者のため」という、センサー導入の「本来の目的」を周知させました。これを機に業務効率を改善させ、「5つのみる（見る、観る、視る、診る、看る）」に費やす時間を増やし、利用者様とより深く関わっていききたいですね。

坂巻 優 大阪城ケアホーム・副介護長



インカム

介護職員同士のスピーディな
情報共有が家族様のメリットにも

「インカム（マイク付イヤホン）」も、大宮ケアホーム光に導入されているICT機器のひとつ。

すべての介護職員が装着しているため、別の階の介護職員の動きや居場所をわざわざ見に行かなくても把握できるように。離れたフロア同士の連携がスムーズになり、チームワークの向上につながっています。



例えば、面会に来られた家族様に利用者様の私物などをお渡ししたい時、1階の事務職員からの「家族様が来られました」という連絡を、介護職員が一斉に共有できるようになったため、家族様をお待たせするケースが減りました。

スピーディな情報共有は、家族様のメリットにもつながっています。

Voice

「すみません」が減り
「ありがとう」が増えました

今までは、利用者様や家族様に何か尋ねられた際、自分が分からなければ「すみません確認します」とお待たせして、分かる介護職員を探していました。

それが今では短時間で全員に詳細を確認できるため、利用者様や家族様に「すみません」と言う回数が減り、逆に「ありがとう」と言っていたいただけることが増えたと感じています。



山崎 真里子
大宮ケアホーム光・
介護主任





カメラで行動を確認した上での訪室は
自立支援にもつながっている



見守りカメラによる画像(イメージ)

また、起床や離床、転倒などをカメラが検知し、パソコンやスマホに通知してくれるため、利用者様の行動レベルに合わせた適切な訪室・声かけにつながっています。

そうした、本当に必要なタイミングでのサポートは、業務の効率化以上に、自立支援の観点からも重要なポイントといえます。



大今里ケアホームで3月から導入されているのが「見守りカメラ」です。天井に設置したAIセンサー内蔵のカメラ(写真上)が部屋全体を写してくれるため、居室内の行動が確認できるようになりました。

今まで見えなかった居室内の可視化は、介護職員の「気づき」を増やし、さらに利用者様の転倒やヒヤリハット対策にもつながっています。

Voice

今後もアンテナを張り ICT機器の情報収集に努めます

日々、稼働している介護施設で、今回のような新しい機器を導入することは簡単ではありません。実際、日常業務と並行しての導入には苦勞もありました。

ただ今後も、利用者様の安全性や介護職員の働きやすさの向上につながるICT機器があれば、アンテナを張って情報を収集していきたいですね。



北吉 貴雅
大今里ケアホーム・
介護長

INFORMATION from 浩治会

SDGsの目標達成に向けた取り組みの「成果報告」

これまで、さまざまな福祉問題・社会問題と向き合ってきた医療法人浩治会の事業内容は、SDGsの目標との親和性が高いことから、2030年までのSDGsの目標達成に向け、いくつかの取り組みを開始しました。その結果、2024年度は以下のような成果となりましたのでご報告いたします。

#1 募金型自動販売機の設置

昨年5月より、当法人の施設に募金型自動販売機を設置。飲料を1本ご購入いただくごとに、価格の10%が「非特定営利活動法人国際連合世界食計画WEP協会」、または「日本国際飢餓対策機構」に寄付される仕組みになっています。

合計寄付額 **260,343円**



#2 ペットボトルキャップでのワクチン支援

先年6月より、当法人の施設にペットボトルキャップの回収箱を設置。ここで回収されたペットボトルキャップは「NPO法人世界の子どもにワクチンを日本委員会 (JCV)」に寄付され、集められたキャップはJCVによってリサイクル資源として売却されます。

その売却益で開発途上国の子どもたちにワクチンを届け、子どもたちの未来を守る活動「子どもワクチン支援」につなげています。

合計ペットボトルキャップ数 **21,200個** (ポリオワクチン13人分)



#3 フードドライブ

食品ロスの削減を目的に、当法人内で余った飲料水を「パルコープ子ども食堂フードバンク」に無償譲渡する取り組みです。

合計飲料水 **1,272本** (550ml)



■ 編集後記

『Delight Vol.2』をご覧いただき、ありがとうございます。編集後記を担当いたします、大宮ケアホーム光の事務担当・和田と申します。

今回のテーマは「ICT」ということで、介護現場でもよく見かけるようになった話題です。ICTの導入が決まった際は、機器の使用方法などで、職員の皆様にも戸惑いがあったように見受けられました。

しかし、利用者様によりよい介護サービスを提供したいとの思いから、技術の習得に懸命に取り組んでいただいた職員の皆様には本当に頭が下がります。



和田 大地
医療法人浩治会
(大宮ケアホーム光)